

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100867		
法人名	社会福祉法人 愛誠会		
事業所名	グループホームあそだ		
所在地	熊本市北区麻生田2丁目5-41		
自己評価作成日	平成27年11月1日	評価結果市町村受理日	平成28年1月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成27年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅街にあるホームは騒音が少ない静かな恵まれた環境の中、ゆっくりとした時間の中で毎日の生活を送ることができています。認知症があっても本人が自分のペースでゆっくりとした環境の中で過ごす事ができるような支援心がけています。
年間を通じて勉強会を実施。特に認知症ケアには力を入れており、リアリティ・オリエンテーションや回想療法、音楽療法を取り入れております。
また、毎月、個別援助報告書を郵送し、入居者様の日常の生活を御家族さまにお伝えする事でコミュニケーションを図るようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新興住宅と昔ながらの民家が残る地に開所して5年目を迎えるホームである。職員は『麻生田(あそだ)』の地名がホーム名であることに誇りを持ち、新管理者体制のもと日々の業務にあたっている。継続された保育園児との交流に加え、ホームも麻生田ネットワークに参加し、情報を共有しながら地域貢献への意欲を語っており、今後のホーム運営や入居者の活動を後押ししていくものと期待される。母体医療機関との連携は入居者や家族と共に職員の安心に繋がっており、季節に応じた健康管理が徹底されている。また、毎月発送される個別援助報告書には一日ごとのバイタルや食事・入浴や排泄状況をはじめ、受診などの健康報告のコメントが詳細に記入されており、職員の観察力やチームワーク力が窺える一枚である。今後も入居者主体の支援で一年一年を重ねて頂きたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念をスタッフルームに提示し、いつでも確認できるようにしている。また、月に1回の全体会議や職員ミーティングで唱和を行い、理念の共有と実践を行っている。	理念は『入居者が地域住民として地域の人々に親しまれるよう、地域に貢献し、笑顔で安心して生活出来る支援に努める』ことを謳っている。玄関・スタッフルームへの掲示や会議・ミーティングの中で共有や振り返りが行われている。また、法人建学の精神(愛情・真心・敬い・慈しみ・いたわる心)は基本方針と共にケア規範ともなっている。	ミーティングなどで理念の振り返りを行っているが、今後はチェックシートを活用することで、一人ひとりがじっくり理念に向き合い、自身のケアを確認できると思われる。また、運営推進会議の席や家族にも説明を行うことで、更にホームへの理解に繋がっていくことが期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や夏祭りに積極的に参加したり、施設行事には地域の方達を招くことで、地域との交流を図っている。また、定期的に麻生田保育園の園児が訪問して頂き、交流の機会を設けている。	地域行事(夏祭りなど)には可能な限り参加しており、今年度は4名の入居者が交流の機会を楽しまれている。また、ホーム行事(敬老会・誕生会)に地域の方を招待しており、特に保育園児との交流は継続され入居者の笑顔を引き出す機会となっている。職員は入居者の散歩コースでもある神社の掃除(7時~9時)に参加し、地域の一員として意識を高めている。	管理者は4ヶ月ごとに開催されている地域のネットワーク活動にも参加していきたいと語っている。実現によりホームや入居者がより地域と身近になっていくと思われる。取り組みが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加したり、保育園の定期的な訪問などにより、認知症の人への理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かす様に試みている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を実施しており、自治会、ご家族様から事業所に対する意見や要望を聞き、事業所の運営やケアサービスに取り入れるようにしている。	定期的な開催が実現しており、参加者には意見や気づきなど、一言発してもらおうよう進んでいる。また、多くの家族に参加してもらえるよう、面会時に案内を行っている。入居者の状況や行事などの取り組みの報告後は、前回出された要望に対しての進捗状況も伝えている。会議には職員の参加が難しく、管理者は議事録に目を通すよう指導している。	将来的に近隣住民にも参加して欲しいとしている。身近な近隣者の参加はありがたい、ホーム運営に活かされることであろう。更にサービスの向上に繋げるために、開設時から交流のある保育園などへも参加を依頼することも一案と思われる。今後の取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の高齢介護福祉課から介護相談専門員が毎月、来館されている。取り組みとして、入居者のニーズを第三者の立場で聞き取って頂き、その報告書を基にケアサービスや施設運営に活かしている。	行政へ出向く機会は事故発生時の報告が主である。毎月、介護相談専門員の訪問を受けており、報告書で受けた内容をサービスに反映させている。また、担当者の運営推進会議への参加はないが、包括職員の参加協力が得られており、地域ネットワーク情報や介護保険について説明が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の排除マニュアルや過去の事例などを活用し、全職員を対象とした勉強会を研修計画に基づいて行い、スタッフ間による話し合いを重ねている。	法人で月1回開催される研修会の中に拘束に関しても含まれており、ホームに持ち帰りミーティングで共有が図られている。玄関の施錠もなくオープンな環境の中で、入居者支援が行われている。外出傾向や不穏時には可能な限り、散歩に同行したり、気分転換できるような声かけを行っている。	昨今、身体拘束や虐待についての報道を耳にする機会も多い。今後はニュースや新聞など世の中の事例をタイムリーに職員間で検討することで、一人ひとりを大切にケアや自身の振り返りの機会になると思われる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関する事の職員研修を行ない、知識と実践の向上に努めている。虐待が見過ごされないように、入浴時にボディチェックを行なっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、1名の入居者の方が利用されている。日常生活自立支援事業や成年後見制度に関する研修を行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明も行う。改正時には分かりやすい説明後に署名、捺印を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回、運営推進会議にご家族もきて頂き、ご本人及びご家族の要望、施設運営についての率直な意見を頂いている。	入居者の意見や要望については、普段の関わりの中で確認しており、散歩をしたいなど身近な要望が多いようである。家族については、運営推進会議や家族アンケートを実施しており、入浴の支援方法や夜勤時に火災が発生した場合の心配、ホームでの調理希望などが出されており、回答できることについてはその場で行っている。	アンケートについて内容を職員間で検討する事が必要と思われる。サービスの向上に繋がるよう工夫されたアンケートの実施に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者、全職員が参加する検討部会を行い、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	全職員が参加する検討部会や毎月のミーティングの席で意見や提案の確認が行われている。ケアマネジャーでもある管理者は、日々の業務にも入り、ストレスケアを含め職員の働きやすい職場環境の整備に努めている。代表者は運営推進会議などで機会あるごとにホームを訪れ、管理者からの報告を受けたり、実際の状況を確認している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員個々の努力や実績で給与水準等の条件の整備を行っている。また、毎月の職員ミーティングにより意見を取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で職員研修を毎月、実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設見学を行い、他事業所のネットワークや勉強会に参加することにより、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前に本人、家族に面談することで、要望などに耳を傾け、安心を確保するための関係作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたり、今までの生活スタイルや家族の介護経験を聞き、本人のよりよい生活が継続できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入するにあたってGHの介護のみではなく、他のサービスも視野に入れたケアを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事はして頂くことで、暮らしを共にする関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に本人に関する事は、相談した上で、共に本人を支えていく関係を築けるよう対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人との面会の機会を設ける事で関係が途切れないようにしている。	家族や近所の友人が来訪した際は、ゆっくりと過ごしてもらえるように配慮し、次回の訪問にも働きかけを行っている。また、母体法人へ行く際は、本人の知っている場所を通ってみたり、趣味の手芸の継続などその方にとっての馴染みの支援に努めている。	馴染みの人や場所に加え、こだわりや特技なども把握し、日々の生活の中に取り入れていかれることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	身体レベルに即した席割りや部屋割りを行うことで、利用者同士が関わり合える環境を作っている。間に職員が入る事で、孤立せずに楽しい生活の場を提供している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話を通じて本人の意向を確認し、その人らしい生活ができるような支援に努めている。困難な場合は、家族から情報を収集して本人の思いに沿うように努めている。	職員は日々の会話の中から思いや意向を把握し、情報は職員間で共有しながらプラン作成に繋げている。また、意思表示が困難な方へは家族に確認したり、思いを推察しながら本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメント時に生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	同じ方であっても、同じ1日の過ごし方ではないため、記録や申し送りを通じて、心身の状態も含め総合的に把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行っている。スタッフミーティングで意見を出し合い、本人らしい自立支援出来るような介護計画を作成している。	定期的なモニタリング(3~6ヶ月)の開催で現状を共有している。介護計画作成担当者は家族の意見や要望も反映し、本人らしく自立支援ができるようなプラン作成に努め、話し合いや説明の機会を設け、承認を得ている。	今後も家族の状況に応じながら、話し合いやわかりやすい説明に努め、プランを実践されていくことに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの内容・結果・気づきを個別記録に記入し、職員間で情報を共有している。関係者間での協議により介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応する為に個別バスハイクを計画したり、柔軟な支援により、はりのある生活を継続して頂けるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外部からのボランティアや保育園児との交流により、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は職員と家族対応を基本に事業所としても一人に対して、2週から4週に掛けて外出支援にて受診し、対応に努めている。	入居の際にかかりつけ医についての説明と、慣れ親しんだ医療機関を継続できることも合わせて伝えている。受診には家族の協力が得られているが、難しい場合には職員が対応し、情報を共有している。皮膚科や歯科は往診により入居者の負担軽減に努めている。職員は日々のバイタルに異常があれば再検し、顔の表情や動き・体重の推移などから異変を見極め、早期に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日々の観察やバイタルの中で、利用者の状態に変化がある時はもとより通常もかかりつけ医に相談し、緊急時は主治医、ご家族と相談し、緊急受診が出来る様に体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院となった時はもとより普段から介護情報の提供を行っている。治療中は医療関係者との連携を取って情報を収集し、退院後のスムーズな支援体制に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に重度化した場合や終末期のあり方についての話し合いを行っている。又、運営推進会議でも施設の取組や方針を報告し理解が得られるよう努めている。	契約時に『重度化・終末期ケア対応指針』をもとにホームの方針を家族に説明している。その中で医療行為が日常的に必要な場合はホームでの対応はできないものの、自然な形で本人・家族の希望があれば応じたいとしている。	現在入居者の健康状態に特に心配な点はないとして、安定した生活の継続を願っている。ただ、研修については開催予定がなく、今後は緊急時対応を含め『対応指針』をもとに研修会で職員の意思統一の機会を持たれることが必要と思われる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制や事故発生時のマニュアルは用意している。その為、職員が急変時に落ち着いて適正な対応が出来るよう、研修を重ねていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災対策の基本である火災避難誘導の訓練を夜間と昼間想定で年2回行っている。夜間想定避難訓練ではご利用者にも参加いただき、避難誘導し難い点、対策について話しあっている。	本年度は3月と10月に日中・夜間を想定した火災訓練を実施している。訓練後は反省会を開き、職員の気づきを議事録に残しながら次回に反映すよう努めている。訓練には点検業者が立ち会うが日頃の安全点検は、項目を決め職員が実施している。古くからの民家と新しい住宅が点在する地域だが、有事の際の協力体制などは確立していない。	今後は、訓練時の周辺への事前告知や運営推進会議などを通じて少しずつ地域との協力ができるような体制づくりに期待したい。また、備蓄は法人本体で管理しているが、当ホームでもできるものを備えたり、自然災害に対する訓練も重要と思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護マニュアルを基に勉強会を開催し、言葉掛けや対応などプライドを損なわないように、またケアの場面において一人ひとりのプライバシーが確保できるケアにあたっている。	マニュアルをもとにした研修会の開催や、理念や基本方針を共有しながら入居者を尊重したケアの実践に努めている。呼称は苗字にさん付けを基本としており、排泄時の誘導や入浴介助なども十分プライバシーに配慮しながら取り組んでいる。個人情報の使用については期間や目的・条件を書面を持って同意を得ている。また、職員の守秘義務についても法人研修やホーム内で周知徹底されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	グループホームは生活の場所であり、時間で束縛する事なく、自己決定が出来る環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーション、趣味、嗜好に基づいてご本人に自由に過ごせるように環境作りに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	声掛けを行い、本人が着たい服を選んで頂いている。家族からお気に入りの洋服を教えて頂き、本人の個性が維持出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者が無理の無いよう、出来る範囲で食事の準備や片づけを職員と一緒にやっている。	ホームでは朝食とご飯のみ作っており、昼・夜の主・副食などは同法人の厨房で調理された物を提供している。栄養面や季節感を取り入れた献立には毎食汁物が添えられており、のど越しも良くなっている。入居者が調理に関わる機会は殆ど無いが、下膳など出来ることで食への関わりを持っている。また、クリスマス会には家族を招待して会食を楽しんでおり、その様子は広報誌でも紹介している。	入居者の思いを共有するためにも、職員が1名でも同じ食事を摂り、厨房へ反映することができないか検討いただきたい。また、食堂のレースカーテンは閉められているが、日中は開けておくことで採光や食事の雰囲気も良くなるものと思われる。合わせて食事のエプロンについて、入居者が不快にならないような使用方法の検討を望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスにおいては法人の管理栄養士に相談している。また、水分補給をまめに行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けの方、見守りが必要な方、介助が必要な方と個々に応じてケアを行っている。状態によっては訪問歯科により口腔内のフォローをして頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しながら、排泄のパターンを把握し、自立に向けた支援を行うよう努めている。	一人ひとりの排泄チェック表を活用し、夜間オムツを使用する方も、日中はリハビリパンツでトイレでの排泄に取り組んでいる。夜間もトイレ誘導やポータブルトイレで対応するなど個々に応じ支援している。トイレの掃除は1日3回行っており、何時でも気持ちよく使用できるように配慮している。また、水分補給や運動、腹部マッサージにより自然排便に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用しながら、排便コントロールに気をつけている。自然排便を促す為に、適度な運動(全身体操)や水分補給の声掛け、腹部マッサージ等を施行し便秘にならないように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日お風呂を準備している。週3回程の入浴を目安にしているが、希望があれば入浴日でなくても入って頂いている。	毎日入浴の準備を行い、午後を中心に週3～4回の支援している。せかさず、ゆっくり楽しんでもらえるような入浴と、拒否の方へも翌日に変更するなど無理強いせず取り組んでいる。同姓介助を基本とし、勤務体制上無理な場合もあるが可能な限り対応できるようにしている。菖蒲や柚子湯の季節湯も継続している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースに合わせて、その時々状況に応じて見守ったり、温度調節をしたり、布団掛けの調整で良眠できる睡眠を目指している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の管理は職員が行い、ダブルチェックにより、飲み忘れや誤薬防止の為に取り組みを行っている。服薬が原因と見られる体調不良時は主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合わせ、食事の片付けなど利用者が出来ることは無理強いせずに見守っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩や菅原神社へのお参りなど外出の機会をつくりまわりの景色や季節を感じて貰っている。家族にも外出支援の協力をして頂いている。	天候や体調に配慮しながら散歩や地元の神社へ参拝に出かけている。また、地域の夏祭りへ参加された方もおられる。身体状況から全員での外出は困難になっており、今後も家族の協力を得ながら個別支援による外出の機会を作っていきたい意向である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、お金を持つこと、使うことの大切さを理解しており、実際に欲しい物を購入出来るよう、自立支援を行っている。同時に家族同意の下で事業所預かり金がある。必要とあらばお金を預かり管理を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の今までの関係性を壊すことなく、手紙や電話のやり取りを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光彩や室温に気を配り、空調の管理を常に行なっている。ラジオやBGMとして音楽を流すことにより、居心地よく過ごせるようしている。花を生けたり季節の創作物を掲示したりしている。	入居者が安心して過ごせるよう、空調や音楽の音量などについても十分配慮しながら取り組んでいる。また、職員の対応も一つの環境と捉え、管理者は気づいた点は指導を行っている。段上がりの畳の間を設けたホールは入居者がゲームやテレビ視聴、イベント開催の場としている活用する機会も多く、使い勝手の良い空間となっている事が窺える。	ホーム周辺は草花や野草などが見かけられる。今後は散歩時に摘んだ季節の花を共有空間に取り入れられることを期待したい。また、年月と共に物品も増えてくることから飾り物や掲示物の破損や汚れなどの確認も必要と思われる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、リビング、ダイニングと複合的に利用することにより、開放的な空間で思い思いに過ごせている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた調度品を居室に設置することにより、居心地よく過ごせている。	入居時注意事項や必要な物(衣類や洗面具など)を詳細に記入したプリントで説明を行う他、馴染みの品について例をあげながら持ち込みを依頼している。日々の掃除は職員が行っているが、衣類の管理は家族の協力も得られている。また、家族も面会時に必要な品がないか職員に確認したり、要望なども伝えている。持ち込みの品や量は様々であり、職員は安全面にも配慮しながら物品の位置なども検討している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かる様に掲示物として「御手洗」の案内表示をしている。安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		